愛知県透析医会の現状

鈴木信夫

透析20年の時代を迎え、透析患者の高齢化、合併症による要介護患者が増加し、今後大きな問題となると考えられる。一方、医療体系は、地域医療計画により、見直されようとしている。透析医療も、この地域医療計画の中に当然取り組まれると思われるが、透析医療の特殊性が十分考慮され、検討される必要がある。

愛知県に於いては、昭和46年6月に愛知県腎不全対策協議会が設立され、その後、愛知腎臓財団へと発展して、腎不全対策を総括して対応している。愛知県透析医会は、昭和53年9月に、透析医療の向上、発展に努め、地域における透析治療に貢献し、併せて会員相互の福祉、親睦を図ることを目的として設立された。この4月に、2代目成田会長が4期8年務められ、県医師会の要職に就かれるため退任されて、小生が引き継ぐことになった。現在、患者数は約6千名です。一方、会員の構成は、施設数が94施設で、総会員は126名です。そのうち、施設長会員は59名です。会長、長谷川、山崎両副会長で新執行部となり、成田前会長の和を重視する方針に沿って、各委員会活動を一層充実させ、活発な活動を目標にしている。そのため、理事も一部交替し、大学関係者からも新たに理事に就任して頂いた。

当医会の活動の主な内容は、1．行政、医師会との交渉、2．保険診療に関する問題、3．会員相互の親睦、4．患者会との話し合い等です。学術講演等は愛知腎臓財団と共催のことが多くなっている。最近の活動としては、斎藤明先生が会長を務められた第9回国際血液浄化学会への支援、日本透析医会愛知県支部の設立、医療廃棄物に関する問題等があげられる。愛知県支部を愛知県医師会館内に設ける件に関しては、成田前会長のお骨折りで順調に進んでいる。また、医療廃棄物の取り扱いについては、行政、業者等話し合いを重ねたが、医会として纏めるには、時期尚早と判断し、会員に取扱い業者のリスト及び料金等の情報提供をしている状況です。その他、会員の親睦のため、ゴルフ大会が年2回程度行われている。また、昨年より、愛腎協（患者会の団体）と年2回話し合いを行っている。

今までは、透析医療は医師会の中で白眼視されがちであったが、愛知県医師会館に支部を設けることにより、一層医師会に協力して、医師会の中で発言権をもち、透析医療がより円滑に行われるように努めるつもりである。

8月12日、突然に日本透析医会の副会長太田裕祥先生の訃報を伝えられ、私は愕然とした。先生は、愛知県の腎不全対策の偉大なる指導者で、私達若いものを親身になり、指導された。そして愛知県において、透析療法と腎移植が腎不全対策の車の両輪と成るような体制を確立された。しかし、腎提供者が少なく、腎移植数が増えない時、晩年の先生は歯痒く思われたのか、移植コーデネーターとして活躍したいと漏らしておられた。先生の腎不全対策に対する情熱には感服した。最後に、先生のご冥福をお祈りし、先生の遺志を継ぐように努めたいと思っている。

愛知県透析医会々長　医療法人研信会知立クリニック